

## 4 保育福祉科 昼間コース 1年次

	講 義 名	開講時期・単位数	
		前 期	後 期
保育士養成課程 教 養 科 目	コミュニケーション I		2
	体育講義	1	
	体育実技		1
	日本語	1	
保育士養成課程 必 修 科 目	保育原理	2	
	教育原理	2	
	子ども家庭福祉		2
	社会福祉	2	
	社会的養護 I	2	
	保育の心理学	2	
	子ども家庭支援の心理学		2
	子どもの理解と援助	1	
	子どもの保健	2	
	子どもの食と栄養		2
	保育の計画と評価		2
	保育内容総論		1
	保育内容の理解と方法・身体表現遊び I		1
	保育内容の理解と方法・音楽遊び I	1	
	保育内容の理解と方法・造形遊び I	1	
	乳児保育 I	2	
	乳児保育 II		1
	子どもの健康と安全		1
	社会的養護 II		1
	保育実習指導 I a		1
保育実習指導 I b		1	
保育士養成課程 選 択 必 修 科 目	子どもと保育	4	
	保育内容の理解と方法・音楽遊び II		1
合 計 単 位 数		23	19
		42	

科 目	コミュニケーション I	講 師	井上 恵理・今泉 良一 中西 和子
授業目標	<p>[授業の目的・ねらい] ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。 ・体験を振り返り、考察を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を築く。 ・コミュニケーション力を身に付ける。</p>		
授 業 の 画	<p>(前期) 1. オリエンテーション (後期) 1. オリエンテーション 2. コミュニケーションゲームプログラム(1) 2. 学校行事の企画(3) 3. 学校生活とクラス活動（入学から卒業まで） 3. 学校行事の企画(4) 4. 自己紹介プログラム（キャリアカード） 4. 学校行事の準備・グループワーク(1) 5. コミュニケーションゲームプログラム(2) 5. 学校行事の準備・グループワーク(2) 6. コミュニケーションゲームプログラムの振り返り 6. 学校行事の準備・グループワーク(3) 7. 自己分析(1) 7. 学校行事の準備・グループワーク(4) 8. 自己分析(2) 8. 行事企画・準備・実践の振り返り 9. 1対1のコミュニケーション 9. コミュニケーションゲームプログラム(3) 10. グループコミュニケーション(1) 10. 先輩から学ぶ保育現場でのコミュニケーション(1) 11. グループコミュニケーション(2) 11. 先輩から学ぶ保育現場でのコミュニケーション(2) 12. 学校行事のガイダンス 12. 保育実習とコミュニケーション(1) 13. 学校行事の企画(1) 13. 保育実習とコミュニケーション(2) 14. 学校行事の企画(2) 14. 保育実習とコミュニケーション(3) 15. 振り返り・夏季休暇・後期の学校生活に向けて 15. 振り返り・進級に向けて</p>		
教科書 及び 参考書	<p>教科書……特に指定なし</p> <p>参考書……特に指定なし</p>		
評 価 の 方 法	<p>（試験やレポートの評価基準など）出席状況、授業態度、提出物等による総合評価</p>		

科 目	体育講義	講 師	宮脇 裕子
授業目標	<p>健やかで充実した人生を歩んでいける様、健康を支える栄養、休養そして運動の効用を考え、簡単かつ実質身体に有効で楽しい療法を体験しながら、健康維持増進できる意欲を培いたい。</p> <p>脳と心と体の免疫システムを学びながら、長引くストレスによる体力低下回避の方策を考察する。</p> <p>バイタリティーを養う為、時折レクリエーション的運動を実施する。</p>		
授 業 の 画	<p>1. 休養の要、ぐっすり睡眠のメカニズム 2. 健康づくりの為の防衛体力を支える免疫力向上の生活習慣、性格行動パターン診断 3. 競技スポーツを支える行動体力 トレーニングを安全に行う為の筋肉との関係 4. 筋肉疲労、血行促進に効く香りによるリンパマッサージ 5. 運動の現場で知っておくべき各ライフステージの安全限界と有効限界について 6. 頑張っているときの交感神経を副交感神経にギアチェンジするメリット 7. 免疫低下を招くストレスを解消するスポーツの効用、各種セラピー 8. 健康づくりの運動の具体的方法、リラクゼーション；ヨガストレッチ・ピラティス 9. レジスタンス運動としての体幹トレーニング、有酸素運動、肩こり腰痛体操 10. 食べる免疫力、うつにならない為の栄養学 11. 体育教育の現場に、トレーニングの5原則を取り入れる工夫 12. リバウンドしないダイエット、メタボにならない生涯スポーツとの関わり方 13. 音楽のワクワク感が免疫力を高めるダンスセラピー 14. 音楽を伴う身体表現活動の幼児に与える友達との共感作用 15. テーマをグループで検討し創意工夫して発表</p>		
教科書 及び 参考書	<p>教科書……『健康増進科学概論—運動、栄養、休養—』今村裕行著他 東京教学社</p> <p>参考書……随時資料を配布するので、ファイルノートを作成して下さい。</p>		
評 価 の 方 法	<p>出席第一。グループで体育と健康に関するテーマを選択し、課題を調査研究し独創的に考察しレポートする。発表への貢献度</p>		

科 目	体育実技	講 師	宮脇 裕子
授業目標	幼児期は、まず「からだ」が出来ていく基となる時期で、体育あそび及び適切なスポーツを通して、筋力・体力・調整力を付けると共に、明るく健康で、豊かな情操を培えるよう保育士の温かく育む姿勢と指導力が求められている。その指導者としての資質を養うと共に、バイタリティー溢れる豊かな遊び心を育てながら運動能力向上を目指して、楽しくマルチスポーツを工夫展開していく。		
授 業 の 画	1. 「あそび」とは幼児にとって何を形成していくのか？走るをテーマにゲームし考える 2. 伝承遊び、鬼ごっこ等、すぐ取り組める道具を使わない遊びを追求する。 3. リズム体操を通して、楽しく体を動かし、表現力を養い、グループで新たな動きを作る 4. 用具を使つての遊びその1 ドッジボールというゲームのルールを千変万化させる。 5. 用具を使つての遊びその2 平均台、マット、フラフープを利用して 6. 用具を使つての遊びその3 基本はポートボール、バスケットボール、アルティメット 7. フットサルに至る前段階のボールあそび 8. 近くの公園で、基礎トレからのフットサル 9. 雨の日の体育室のレクリエーションゲーム 10. ウォーミングアップの効用、スロートレーニングとしてのヨガストレッチ、ピラティス 11. 新聞紙を使ったあそび、新聞紙ホッケー、チャンバラごっこ 12. リズムダンス創作1 鑑賞、曲選択、振り付け 13. リズムダンス創作2 民族的身体活動、よさこいソーラン 14. リズムダンス創作3 ジングルベル 15. 発表会 実技試験 グループ活動の意義考察		
教科書 及び 参考書	教科書……随時プリント配布  参考書……特に指定なし		
評 価 の 方 法	出席第一。リズムダンス創作をグループで行い発表する。その貢献度と時を活かして仲間と共に楽しんで活動出来ているか。		

科 目	日本語	講 師	千原 桃子・原 善・横山 雅代
授業目標	教授内容の概要 日本語の文章を読解する力、書き表す力、日本語の基礎力の向上を目指す。絵本や紙芝居、児童文学等に親しみ、子どもと物語世界の出会いを図れる知識、技能を身に付ける。 絵本のことばから日本語を再発見する。		
授 業 の 画	1. 【千原】オリエンテーション・図書室の使い方 2. 【原】日本語の基礎力①話し言葉と書き言葉、敬体と常体 3. 【千原】本の探し方、情報収集の仕方 4. 【原】日本語の基礎力②修飾語の順序 5. 【原】日本語の基礎力③要約の仕方 6. 【原】レポートの書き方①構想の立て方 7. 【原】レポートの書き方②引用の仕方、文献の示し方 8. 【千原】絵本の選び方 9. 【横山】絵本の中のことば—様ざまな「いないいないばあ」を比較、昔話絵本の文章を比較 10. 【横山】絵本の中のオノマトペ・日本の伝統色（自然を背景にした色、その他雨、風、空の名前なども） 11. 【横山】絵本と詩—詩の絵本のいろいろ、詩を味わう 12. 【横山】絵本で楽しく学ぶ文法・視点と文体のいろいろ 13. 【横山】絵本表現の現代的課題—ことばの表現とリテラシー（主体、子どもの権利、ジェンダー等）、ことばと想像力（多様な意味、議論と対話） 14. 【千原】絵本の読み聞かせ実演 15. 【千原】保育教材に親しむ（パネルシアター、紙芝居、エプロンシアターなど）		
教科書 及び 参考書	教科書……授業時に適宜プリントを配布  参考書……特に指定なし		
評 価 の 方 法	出席率、平常点、授業態度、提出物、発表など総合評価		

科 目	保育原理	講 師	村山 久美
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義及び目的について理解する</li> <li>2. 保育に関する法令及び制度を理解する</li> <li>3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する</li> <li>4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する</li> <li>5. 保育の現状と課題について理解する</li> </ol>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (授業の進め方、保育とは)</li> <li>2. 保育の意義と目的</li> <li>3. 子どもの最善の利益とは</li> <li>4. 子どもの家庭福祉と保育</li> <li>5. 保育の社会的意義</li> <li>6. 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づける関係法令</li> <li>7. 子ども・子育て支援新制度</li> <li>8. 保育の実施体系</li> <li>9. 保育の基本①</li> <li>10. 保育の基本②</li> <li>11. 子ども理解①</li> <li>12. 子ども理解②</li> <li>13. 質の高い保育とは</li> <li>14. 保育の現状と課題</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<p><b>教科書</b>……特に指定なし、授業内でプリントを配布します。</p> <p><b>参考書</b>……『保育所保育指針』</p>		
評 価 の 方 法	出席を含む授業態度、提出課題、試験で総合評価を行います。		

科 目	保育原理	講 師	鈴木 八重子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の意義、及び目的について理解する。</li> <li>・ 保育に関する法令及び制度を理解する。</li> <li>・ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。</li> <li>・ 保育の思想と歴相的変遷について理解する。</li> <li>・ 保育の現状と今後の課題について理解する。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育原理の授業の進め方 保育所の一を知る</li> <li>2. 子どもを理解する～(1) 事例を通して</li> <li>3. 子どもを理解する～(2) 絵本の読み聞かせを通して</li> <li>4. 保育所保育指針とは</li> <li>5. 保育所保育指針における基本原則</li> <li>6. 保育における養護・内容</li> <li>7. 保育の目標</li> <li>8. 保育における環境・方法</li> <li>9. 子どもの最善の利益と保育</li> <li>10. 子どもの理解に基づく保育の課程保育の計画及び評価(1) 指導計画の作成と展開</li> <li>11. 子どもの理解に基づく保育の課程保育の計画及び評価(2) 保育の記録と評価</li> <li>12. 諸外国の保育の思想と歴史、子ども観(1)</li> <li>13. 日本の保育の思想と歴史、子ども観(2)</li> <li>14. 保育者の役割と責務</li> <li>15. 保育の現状と課題</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<p><b>教科書</b>……『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育保育要領』 チャイルド社</p> <p><b>参考書</b>……特に指定なし</p>		
評 価 の 方 法	出席、授業態度、提出プリント、小テスト等による総合評価		

科 目	教育原理	講 師	桑嶋 晋平
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の思想、歴史について学び、教育にかんする基礎的なことがらを理解する。</li> <li>・教育というとなみがいかにしてなりたっているかを学ぶとともに、教育と社会のさまざまな領域とのかかわりを学び、現代教育の諸問題を多角的にかんがえる。</li> <li>・自身の教育観や子ども観・家族観を問いなおす、また、自身の教育経験をふりかえり、ことばで表現する。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 「教育」とはなにか？—教育の理念と目的</li> <li>3. 諸外国の教育と日本の教育との比較</li> <li>4. 共同体と人間形成</li> <li>5. 「子ども」とは誰か？—子どもと家族の歴史の変遷</li> <li>6. 近代学校はなぜ・どのようにしてできたのか？</li> <li>7. 「主体的である」とはどういうことか？</li> <li>8. 乳幼児期に教育は必要か？</li> <li>9. 教育と環境・空間</li> <li>10. 教育の環境・空間をデザインする</li> <li>11. 「遊び」とはなにか？</li> <li>12. 実践をふりかえるとはどういうことか？</li> <li>13. 対話的な教育—子どもの哲学について</li> <li>14. 文化を伝えるとはどういうことか？—社会教育・生涯教育の視座から</li> <li>15. 講義のまとめ—異質な他者との共生</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし  <b>参考書</b> ……適宜指示する		
評 価 の 法	出席状況および各講義後の小レポートによって評価する		

科 目	子ども家庭福祉	講 師	加藤 直子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く現状についての知識を深め、子ども家庭福祉の理念である「子どもの最善の利益」の保障についての基本姿勢を学ぶ。</li> <li>・子ども家庭福祉の制度（法体系、関係機関等）への理解を深める。</li> <li>・子どもや家庭に対する倫理観を深め、保育者としての専門性を高めていく。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、子ども家庭福祉とは</li> <li>2. 子どもを取り巻く現状と「子どもの最善の利益」</li> <li>3. 子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利</li> <li>4. 子ども家庭福祉の制度（法体系、関係機関）</li> <li>5. 児童福祉施設(1)</li> <li>6. 児童福祉施設(2)</li> <li>7. 子ども家庭福祉と保育</li> <li>8. 里親制度</li> <li>9. 子どもを取り巻く諸問題</li> <li>10. ひとり親家庭への援助</li> <li>11. 地域子育て支援の目的と施策</li> <li>12. 障害のある子どもの福祉</li> <li>13. 子ども虐待、DVとその防止</li> <li>14. 母子保健について</li> <li>15. まとめ「保育者の専門性と家庭、関係機関との連携」、レポート指導</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『新版 よくわかる子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房  <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評 価 の 法	出席状況、受講態度、発表、レポート課題等による総合評価		



科 目	社会的養護 I	講 師	高田 俊輔
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護とは何かを理解する。</li> <li>・社会的養護の歴史的背景および現状の課題を理解する。</li> <li>・社会的養護の制度や仕組みについて理解する。</li> <li>・児童虐待への理解および社会的養護のもとで生活する子どもへのケアを考える。</li> <li>・児童福祉施設における保育士の意義と役割を考える。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション—社会的養護とは何か—</li> <li>2. 社会的養護に関する社会状況</li> <li>3. 社会的養護の歴史と法整備</li> <li>4. 社会的養護の対象と児童福祉施設の運営管理①</li> <li>5. 社会的養護の対象と児童福祉施設の運営管理②</li> <li>6. 子どもの権利擁護と社会的養護</li> <li>7. 家庭養護と施設養護—家族と同様の養育環境とは何か—</li> <li>8. 社会的養護における実践理論</li> <li>9. 社会的養護におけるケアの実際① 回復を目指したケアについて考える</li> <li>10. 社会的養護におけるケアの実際② パーマネンシーケアについて考える</li> <li>11. 児童福祉と他領域との連携</li> <li>12. 社会的養護に関わる専門職とその理念</li> <li>13. 被措置児童の虐待防止</li> <li>14. 社会的養護の課題と地域福祉</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……指定なし  <b>参考書</b> ……資料を配布する。また、適宜、推奨文献を提示する。		
評 価 の 方 法	出席状況、受講態度、リアクションペーパー、試験成績による総合評価		

科 目	保育の心理学	講 師	小沢 恵美子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達に関する心理学の基本的知識を学ぶ。</li> <li>・保育の心理学の内容と保育実践を結びつけながら理解する。</li> <li>・自分が保育者としてかかわることを考えながら、子どもの発達の理解を深める。</li> <li>・心理学で学んだ内容と自分自身のことを結びつけて考える。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、発達観、子ども観について</li> <li>2. 子どもの発達と環境</li> <li>3. 情緒の発達と自我</li> <li>4. 身体的機能と運動機能の発達</li> <li>5. 認知の発達(1)</li> <li>6. 認知の発達(2)</li> <li>7. 学習のメカニズム</li> <li>8. 動機づけ</li> <li>9. ことばの発達</li> <li>10. 愛着の形成</li> <li>11. 他者との関り</li> <li>12. 生涯発達の過程—児童期・青年期—</li> <li>13. 生涯発達の過程—青年期の人間関係—</li> <li>14. 生涯発達の過程—成人期・老年期—</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『保育の心理学 I 実践につなげる、子どもの発達理解』萌文書林  <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評 価 の 方 法	出席状況、受講態度、レポート、試験などによる総合評価		

科 目	子ども家庭支援の心理学	講 師	大谷 由利子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、特に初期経験の重要性について理解する</li> <li>・家族・家庭の意義や機能を理解し、子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について学ぶ</li> <li>・子どもの生活・生育環境とその影響について学び、子どもの心の健康に関わる課題について理解する</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 愛着の形成</li> <li>3. 愛着行動と愛着の発達</li> <li>4. 他者とのかかわり</li> <li>5. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション</li> <li>6. 胎児期および新生児期の発達</li> <li>7. 乳幼児期の発達</li> <li>8. 児童期・青年期の発達</li> <li>9. 成人期・老年期の発達</li> <li>10. 親という存在とその成長</li> <li>11. 子育ての悩み</li> <li>12. 慈しむところを育てる</li> <li>13. 虐待や不適切なかかわり</li> <li>14. 子育てを支えるネットワーク</li> <li>15. テスト</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『保育の心理学Ⅰ』萌文書林（保育の心理学で使用した教科書です） <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評 価 の 方 法	授業への参加態度、出席、テスト		

科 目	子どもの理解と援助	講 師	井上 恵理・東郷 結香
授業目標	<p>下記5点を授業目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育における「子ども理解」の意義を考える。</li> <li>・子どもを理解するうえで必要となる基礎的な理論や、考え方を習得する。</li> <li>・子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</li> <li>・保育現場における子どもの発達支援について理解を深める。</li> <li>・発達の連続性の観点から、子どもの発達支援における保育士の役割について考える。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 保育における子ども理解(1) 子ども理解とは</li> <li>3. 保育における子ども理解(2) 保育者の姿勢</li> <li>4. 保育における子ども理解(3) 保育・指導・援助</li> <li>5. 子どもを理解する視点(1) 子どもの遊びと環境</li> <li>6. 子どもを理解する視点(2) 人的環境としての保育者</li> <li>7. 子どもを理解する視点(3) 子ども同士の関わり</li> <li>8. 子どもを理解する視点(4) つまずきと葛藤</li> <li>9. 子どもを理解する方法(1) 関与しながらの観察</li> <li>10. 子どもを理解する方法(2) 記録</li> <li>11. 子どもの理解に基づく発達援助(1) 個人差の把握と援助</li> <li>12. 子どもの理解に基づく発達援助(2) 障がいのある子どもへの対応</li> <li>13. 子どもの理解に基づく発達援助(3) 連続性のある保育</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特になし <b>参考書</b> ……特になし		
評 価 の 方 法	出席状況、授業態度、提出物、試験などによる総合評価		



科 目	子どもの保健	講 師	竹内 麻貴・中村 直美
授業目標	1. 子どもの発育・発達について理解する。 2. 子どもの心身の健康の維持、増進に必要なことは何かについて考え、理解を深める。		
授 業 の 画	1. 子どもの心身の健康と保健の意義 2. 子どもの身体発育 3. 子どもの運動機能の発達 4. 子どもの生理機能の発達 ①神経系 5. ②循環系 6. ③免疫系 7. ④その他 8. 子どもの心身の健康と生活 ①睡眠 9. ②排泄 10. ③その他 11. 子どもの健康状態の把握 ①日常的な健康観察 12. ②健康診断等について 13. 子どもにみられやすい疾病 14. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 15. まとめ・試験 ※内容、回は授業の進行等により変更があります。		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……新基本保育シリーズ⑪『子どもの保健』中央法規 <b>参考書</b> ……新保育士養成講座第7巻『子どもの保健』全国社会福祉協議会		
評 価 の 方 法	出席状況、受講態度、試験結果等を総合して評価します。		

科 目	子どもの食と栄養	講 師	島村 憲子
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育と発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本とその内容、食育のための環境を理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		
授 業 の 画	1. 子どもの心身の健康と食生活について 2. 子どもの食生活の現状と課題 3. 栄養素の基礎知識 糖質の代謝と栄養学的意義 4. たんぱく質の代謝と栄養学的意義 5. 脂質の代謝と栄養学的意義 6. ビタミン、ミネラルの代謝と栄養学的意義 7. 日本人の食事摂取基準、食品群について 8. 子どもの発育、発達と栄養について 乳汁期の栄養と食生活 9. 離乳期の栄養と食生活 10. 幼児期の栄養と食生活 11. 幼児期の食生活上の問題 12. 施設における食生活、特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活 13. 食育の基本と内容 14. 保育所における食育推進の計画、実施、評価 15. まとめ 試験		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院 『はじめての食品成分表』女子栄養大学出版社 <b>参考書</b> ……その時々参考になるものを紹介		
評 価 の 方 法	出席、レポート、試験による総合評価		

科 目	子どもの食と栄養	講 師	高尾 優
授業目標	<p>子どもの食生活は子どもを取り巻く環境によって大きな影響を受けている。食べ物があふれ、廃棄されることが問題になっている一方で、子どもの貧困も大きな問題となっている。子どもの食生活の現状と課題について学習し、「食」についてしっかり考える。</p> <p>子どもが胎内にいるときから、成長の各段階において、どのような栄養が必要となり、そのためにはどのような食事を摂ったらよいかを理解する。</p> <p>「食育」について学習し、実践できる知識を習得する。保育所における食育に関する指針を理解する。</p>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康と食生活</li> <li>2. 栄養に関する基本的な知識（栄養とは、栄養素とは）</li> <li>3. 栄養に関する基本的な知識（栄養素について）</li> <li>4. 食事摂取基準と献立作成</li> <li>5. 妊娠期・授乳期の食生活と栄養</li> <li>6. 乳汁期の食生活と栄養</li> <li>7. 離乳期の食生活と栄養</li> <li>8. 幼児期の食生活と栄養</li> <li>9. 学童期・思春期の食生活と栄養</li> <li>10. 生涯の発育・発達と栄養</li> <li>11. 食育とは</li> <li>12. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養</li> <li>13. 特別な配慮を要する子どもへの食事と栄養</li> <li>14. 緊急時・災害時への対応</li> <li>15. テスト</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<p>教科書……『発育期の子どもの食生活と栄養』（学建書院）</p> <p>参考書……特に指定なし</p>		
評 価 の 方 法	出席、テスト、提出物（レポート等）、授業態度を総合的に評価する。		

科 目	子どもの食と栄養	講 師	山中 恵里香
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。</li> <li>2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。</li> <li>3. 食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。</li> <li>4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。</li> <li>5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</li> </ol>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康と食生活</li> <li>2. 子どもの食生活の現状と課題</li> <li>3. 栄養に関する基礎知識（5大栄養素、糖質）</li> <li>4. 栄養に関する基礎知識（蛋白質、脂質）</li> <li>5. 栄養に関する基礎知識（ビタミン、ミネラル、食物繊維）</li> <li>6. 日本人の食事摂取基準について</li> <li>7. 子どもの発育・発達と食生活（乳汁期）</li> <li>8. 子どもの発育・発達と食生活（離乳期）</li> <li>9. 子どもの発育・発達と食生活（幼児期）</li> <li>10. 子どもの発育・発達と食生活（学童期）</li> <li>11. 児童福祉での給食と家庭での食事</li> <li>12. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（疾病、食物アレルギー、障害がある子）</li> <li>13. 食育の基本と内容①</li> <li>14. 食育の基本と内容②</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<p>教科書……『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院 『はじめての食品成分表』女子栄養大学出版社</p> <p>参考書……そのときどきに参考になるものを紹介</p>		
評 価 の 方 法	出席、提出物、小テスト、試験による総合評価		

科 目	保育の計画と評価	講 師	村山 久美
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の課程（計画・実践・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。		
授 業 の 画	1. ガイダンス（授業の進め方、保育の計画・評価とは） 2. 保育のカリキュラムとは 3. 保育における計画・評価の意義 4. 子ども理解① 5. 子ども理解② 6. 保育の質の向上 7. 保育所保育指針の内容及び社会的背景 8. 保育所保育指針における保育の目標と計画 9. 指導計画の作成① 10. 指導計画の作成② 11. 指導計画の作成③ 12. 指導計画の作成④ 13. 保育の記録及び省察 14. 保育の評価 15. 試験		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし、授業内でプリントを配布します。 <b>参考書</b> ……『保育所保育指針』		
評価の 方 法	出席を含む授業態度、提出課題、試験で総合評価を行います。		

科 目	保育内容総論	講 師	中村 悦子
授業目標	◎保育所保育指針を読みながら保育の全体的な構造を学ぶ。 ・保育の歴史の変遷と社会的背景を知る。 ・基本的な保育園の役割、保育内容を学ぶ。 ◎子どもの発達を踏まえた保育内容と展開。 ・子どもの生活を通じた養護と教育。 ・子どもの発達の中からあそびと展開。 ・子育て不安、虐待等々社会的な支援、援助を学ぶ。 ・実践に結び付く手遊び、絵本、読み聞かせなどを学ぶ。		
授 業 の 画	1. オリエンテーション（授業の進め方、授業態度、ルール等） 2. 保育所保育指針にふれる、「保育所」「幼稚園」 3. 保育所保育指針から①「養護と教育」 4. 保育所保育指針から②「環境 領域」 5. 保育所保育指針 6. } 7. } 子どもの発達 8. } 9. } 10. } あそび 11. } 12. 発達、あそびのまとめ 13. 虐待の現状 14. 地域社会の子育て支援 15. まとめ 試験 <p style="text-align: right;">※授業内容、回は順不同になることあり。</p>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『保育所保育指針』 <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評価の 方 法	授業態度重視、提出物、出欠席、試験の総合評価		

科 目	保育内容の理解と方法・ 身体表現遊び I	講 師	小倉 恵子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なあそび、特に「運動あそび」を中心に実践する。</li> <li>・あそびの意義や社会的背景を理解する。</li> <li>・身体的、運動能力の発達などを理解し、遊びの構成に取り入れていく。</li> <li>・あそびにおける指導の役割、留意点等を身につける。</li> <li>・様々な運動用具の使用方法を理解する。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動あそびの意義と社会的背景</li> <li>2. 子どもの発達と運動能力、運動スキルの発達</li> <li>3. 実技 導入～展開 (ふれあいあそび)</li> <li>4. (表現あそび)</li> <li>5. (鬼あそび)</li> <li>6. (ジャンケンあそび)</li> <li>7. (リズム運動)</li> <li>8. (親子体操)</li> <li>9. 様々な運動用具の使用方法等</li> <li>10. 実技 導入～展開 (マットあそび)</li> <li>11. (とび箱あそび)</li> <li>12. (縄あそび)</li> <li>13. (巧技台あそび)</li> <li>14. (サーキットあそび)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	教科書……特に指定なし 参考書……特に指定なし		
評 価 の 方 法	出席状況、授業態度、ノート提出等による総合評価		

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I	講 師	音楽科担当講師
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の現場において生活と遊びの中で様々な用いられる、わらべ歌・手遊び歌・リトミックソング・季節の歌や生活の歌など知っておきたいレパートリーを多角的に実践演習していきます。</li> <li>・授業時間の前半・後半を45分ずつに分割し、①音楽リズム（個人レッスン形式）②歌あそび（全体授業）の移動入れ替え制で展開します。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（特に個人レッスンでの注意事項等）</li> <li>2. ①音楽リズム：ピアノ等による個人レッスン ②歌あそび：自分の声を知ろう（呼吸法・発声練習）</li> <li>3. 〃 わらべ歌・手遊び歌・子どもの歌等の演習</li> <li>4. 〃</li> <li>5. 〃</li> <li>6. 〃</li> <li>7. 〃</li> <li>8. 〃</li> <li>9. 〃</li> <li>10. 〃</li> <li>11. 〃</li> <li>12. 〃</li> <li>13. 〃</li> <li>14. 発表曲のリハーサル</li> <li>15. 実技試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	教科書……『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ出版） 『ポケットいっぱいのおうた』（教育芸術社） 参考書……特に指定なし		
評 価 の 方 法	出席状況、受講態度、実技試験による総合評価		

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ	講 師	なかむら しんいちろう
授業目標	造形表現の意義を考え、様々な教材を用いて主に絵画分野の課題（講義と実技）を行う。 学生各自は、内なる心の思いを作品に表現し、造形の喜び、面白さを体感する。また制作の過程から保育者と子どもの両方の立場を経験する。 そして子どもの主体的活動及び保育者の援助とは何かを考え、自らの保育における造形感、造形技術を養う。 ＊進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。		
授 業 の 画 計	1. 好きな色のチームキャラクター制作、絵地図制作 2. 様々な線遊び（ミニコイノボリ制作から集団制作への展開） 3. 基本図形の組み合わせ遊び（丸三角四角の世界） 4. 色について（色相環、色相、明度、彩度、反対色、近似色） 5. 虹色の貼り絵（黒い紙と色紙） 6. 造形表現について（表現と表出、意義、自己肯定感、個の確立、遊び、多様性） 7. 絵画の発達段階について（なぐりがき期、象徴期、前図式期、図式期） 8. 幼児画の特徴（頭足人、レントゲン画、誇張画、展開描法、多視点画、アニミズム的表現など） 9. モダンテクニック演習 1（絵画遊び：はじき絵、フロッタージュ、デカルコマニーなど） 10. モダンテクニック演習 2（絵画遊び：スクラッチ、スタンプ、拓本、染め、ひっかき絵など） 11. グループによる壁面制作：内容を相談、検討し、表現展のプランを立て必要な道具材料を揃える。 12. グループによる壁面制作：展示作品の制作。（個別） 13. グループによる壁面制作：展示舞台の制作。（グループ） 14. グループによる壁面制作：飾り付けと仕上げを行い完成。全体発表をする。 15. チャイルド祭ポスター制作（掲示物制作）		
教科書 及び 参考書	教科書……特に指定なし 参考書……特に指定なし		
評 価 の 方 法	総合的評価。特に出席状況と授業態度を重視（授業内での作品の完成度。制作に対する意欲的な取り組みと真摯な姿勢、適切な片付け、グループ制作での協調性など）		

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ	講 師	目黒 祥元
授業目標	遊びの中で経験する造形活動本来の自由さと楽しさを童心に戻って体験する。 課題制作を通して、技術を高め、柔軟な発想を養い、幼児造形に対する理解を広める。 実習では、幼児造形の枠にこだわらず制作する。 ＊今日の課題は？ 瞬発力を発揮して自分なりのアイデアで実習に取り組んで下さい。 ＊状況に応じて、授業内容、進行を適宜変更します。		
授 業 の 画 計	1. 造形実習の進め方などのガイダンス 2. 色を作る 色彩についての基礎 3. 絵具と遊ぶ 4. 色紙を貼って 5. 1 枚の紙を切って 6. 身近な物で紙工作 7. 粘土であそぶⅠ 8. 粘土であそぶⅡ 9. 幼児造形の発達段階復習と造形テクニックの体験Ⅰ 10. 幼児造形の発達段階復習と造形テクニックの体験Ⅱ 11. 刷る遊びと紙版画Ⅰ 12. 紙版画 13. 作品を展示する 14. 壁面装飾 15. 壁面装飾		
教科書 及び 参考書	教科書……特に指定なし 参考書……特に指定なし		
評 価 の 方 法	実習への取り組み、課題の完成状況、作品の評価、出席等の状況による総合評価		

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	講 師	高木 秀文
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期の発達段階に見られる特徴的で独特な表現の形（なぐり描き、見立て、頭足人、ら列、展開表現）を模擬的に体験して、この時期の造形活動への理解と興味を深める。</li> <li>・ 一方、保育現場で応用の出来る実践的な制作課題を用意して各々の造形実習レベルを強化していく。</li> </ul>		
授 業 の 画 計	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ガイダンス」授業内容、評価、用具教材について。他、児童画鑑賞コメント。</li> <li>2. 「児童の表現」幼児期の描画を模擬的に体験する。</li> <li>3. 「児童の表現 2」幼児期の描画を模擬的に体験する。</li> <li>4. 「お話の絵」むかし話を読み、その中の一場面を絵に描く。</li> <li>5. 「お話の絵 2」むかし話を読み、その中の一場面を絵に描く。</li> <li>6. 「児童の表現 3」幼児期の描画を模擬的に体験する。</li> <li>7. 「表現の類型復習」前半で行った幼児期の表現に関するテスト形式の復習。</li> <li>8. 「表情表現の工夫」顔面にとどまらず身振りや動作で感情を絵画表現する。</li> <li>9. 「貼り絵人形作り」性別、年齢、名付けをしてヒト型キャラクターを作る。</li> <li>10. 「貼り絵人形作り 2」複数の人形を作り情景や物語背景を考える。</li> <li>11. 「各種表現技法」幼児期に適した絵の具やパス類を用いた技法を体験、理解する。</li> <li>12. 「各種表現技法 2」幼児期に適した絵の具やパス類を用いた技法を体験、理解する。</li> <li>13. 「各種工作」主に紙粘土・色紙を使った工作を行う。</li> <li>14. 「各種工作 2」主に紙粘土・色紙を使った工作を行う。</li> <li>15. 「表現技法の理解」後半で行った表現技法に関するテスト形式の復習。</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特になし  <b>参考書</b> ……『保育をひらく造形表現』萌文書林		
評価の 方 法	出席状況・テスト・受講態度による総合評価		

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	講 師	宮地 明子
授業目標	絵画表現における子供の発達を知り、基本的な絵画技法を中心に体験する。 現場での指導実践をイメージしながら素材の持つ子供への影響力や、指導側のねらいを考察する。		
授 業 の 画 計	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業についてのガイダンス 子供の発達と表現</li> <li>2. 絵画表現における子供の具体的発達段階 スクリブル（なぐりがき）を考える</li> <li>3. 基礎表現 1 タンポ</li> <li>4. 基礎表現 2 デカルコマニー</li> <li>5. 基礎表現 3 ビー玉コロコロ</li> <li>6. 基礎表現 4 はじき絵・スクラッチング</li> <li>7. 基礎表現 5 ふき絵・流し絵</li> <li>8. 基礎表現 6 染め・にじみ</li> <li>9. 基礎表現 7 フィンガーペイント</li> <li>10. 基礎表現 8 版画</li> <li>11. 絵画表現を引き出す工夫 ①</li> <li>12. 絵画表現を引き出す工夫 ②</li> <li>13. 色彩について</li> <li>14. 集団制作について</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし。授業内容に合わせて講師が必要資料は準備し配布します。  <b>参考書</b> ……特に指定なし。授業内容に合わせて講師が必要資料は準備し配布します。		
評価の 方 法	出席・単位ごとのレポート提出と、授業への取り組みによる総合的評価。		

科 目	乳児保育Ⅰ	講 師	中村 悦子
授業目標	◎0、1、2歳の最も重要な時期を学び理解する。 ・乳児保育の意義・目的・歴史・役割を学ぶ。 ・乳児保育の多様な現状と課題を知る。 ◎乳児保育（3歳未満児）の発達、発育、環境、を学ぶ。 ・保育園生活24時間を視野に入れた保育、環境、配慮を学ぶ。 ・3歳未満児の発達を踏まえた保育士の援助、関わり、協働。 ・「手をかけ」「目をかけ」「言葉かけ」を具体的に学び実践につなげるように学ぶ。		
授業の 計 画	1. オリエンテーション（授業の進め方、授業態度、etc） 2. 乳児保育って何？① 3. 乳児保育って何？② 4. 乳児保育の基本 5. 乳児保育の基本 6. 乳児保育の基本 7. 乳児のおもちゃを作成 8. 0歳児の発達と保育 9. 0歳児の発達と保育 10. 1歳児の発達と保育 11. 1歳児の発達と保育 12. 2歳児の発達と保育 13. 乳児保育の記録と計画 14. 地域社会への子育て支援 15. まとめ ※内容、回は順不同になることあり		
教科書 及び 参考書	教科書……特に指定なし 参考書……特に指定なし		
評価の 方 法	授業態度重視、提出物、授業内でのテスト、出欠席の総合評価		

科 目	乳児保育Ⅱ	講 師	中村 直美
授業目標	1. 3才未満児の発育、発達の過程や特徴を理解し、それを踏まえた援助の方法や関わり の実際を学ぶ。 2. 3才未満児の生活や遊び、保育のすすめ方の基本を理解する。 3. 乳児保育における配慮、衛生管理、安全管理の基本を理解する。 4. 乳児保育における保育計画作成の基本を学ぶ。		
授業の 計 画	1. オリエンテーション（この授業で学ぶこと、授業のすすめ方等） 2. 乳児保育の基本、保育施設での乳児の1日 3. 乳児保育の実際①だっこの仕方、おんぶの仕方 4.                    〃                    ②乳児の衣服の基礎知識 5.                    〃                    ③衣服の着せ方、ぬがせ方 6.                    〃                    ④オムツ交換、排泄の援助 7.                    〃                    ⑤授乳の仕方 8.                    〃                    ⑥離乳食のすすめ方 9.                    〃                    ⑦沐浴、清拭の方法 10.                   〃                   ⑧沐浴、清拭の方法 11. 乳児保育の環境と衛生管理 12. 乳児保育における安全管理 13. 乳児保育における保護者との関わり 14. まとめ 15. 試験 ※内容、回は授業の進行により変更があります。		
教科書 及び 参考書	教科書……『はじめて学ぶ 乳児保育』同文書院 参考書……『やさしい乳児保育』青踏社		
評価の 方 法	出席状況、授業態度、定期試験、提出物等を総合して評価します。		





科 目	社会的養護Ⅱ	講 師	高田 俊輔
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護の実際について理解する。</li> <li>・支援計画の作成および児童福祉施設における実践について理解を深める。</li> <li>・実際の事例を通して、社会的養護の在り方について考える。</li> <li>・施設保育士として、社会的養護における役割や業務を考える。</li> <li>・ソーシャルワークの方法や技術について理解する。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 望ましいアドミッションケアとは何か</li> <li>3. 社会的養護における子ども理解—子どもと家庭のニーズについて—</li> <li>4. インケアにおける一日の流れ</li> <li>5. 集団を活用した生活づくり</li> <li>6. 子どもへの治療的ケアとは何か</li> <li>7. 里親家庭・ファミリーホームにおける生活の実際</li> <li>8. 施設行事の意義</li> <li>9. 子どもの行動への理解と支援</li> <li>10. リービングケア—子どもの自立を支えるということ—</li> <li>11. 親子再統合—家庭復帰への取り組み—</li> <li>12. 措置変更の現状と課題</li> <li>13. 児童福祉施設職員のチームワークと働き方</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……指定なし  <b>参考書</b> ……資料を配布する。また、適宜、推奨文献を提示する。		
評 価 の 方 法	出席状況、受講態度、リアクションペーパー、試験成績による総合評価		

科 目	保育実習指導Ⅰa	講 師	今泉 良一・佐藤 博美 中西 和子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な学習体験である保育所実習を有意義なものにするために必要な事項を学ぶ。</li> <li>・実習に臨む目的意識、実習生としての常識を身につける。</li> <li>・実習日誌の記載方法を体得する。</li> <li>・学生自身が立案、作成した指導案や制作物の発表を行う。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の概要</li> <li>2. 保育所の概要と実習生としての心構え 個人票作成</li> <li>3. 保育所の1日の流れと保育内容の理解</li> <li>4. 実習日誌を書く意義と記入の仕方</li> <li>5. 幼児クラスの実習日誌の書き方</li> <li>6. 乳児クラスの実習日誌の書き方</li> <li>7. 実習目標を立てる①</li> <li>8. 実習目標を立てる②</li> <li>9. 実習に伴う書類の作成 事務手続きの確認</li> <li>10. グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成①</li> <li>11. グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成② オリエンテーションについて</li> <li>12. グループワークによる手遊び・絵本の発表①</li> <li>13. グループワークによる手遊び・絵本の発表②</li> <li>14. まとめと振り返り</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『フォトランゲージで学ぶ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画』萌文書林 『保育所保育指針』 <b>参考書</b> ……授業内で配布したプリントはファイルにまとめておく		
評 価 の 方 法	出席状況（無断欠席不可）、授業態度、小テスト、提出物、発表、試験等による総合評価		

科 目	保育実習指導 I b	講 師	井上 恵理・東郷 結香
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貴重な学習経験である施設実習を有意義なものにするために必要な事項を学ぶ。</li> <li>・ 児童福祉施設の入所児、職員に対する理解を深める。</li> <li>・ 実習に臨む目的意識、問題意識を育てる。</li> <li>・ 実習日誌の記載方法を体得する。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設実習の意義と目的</li> <li>2. 児童福祉入所・通所施設実習の意義と目的</li> <li>3. 児童養護施設について</li> <li>4. 乳児院について</li> <li>5. 知的障害児・者施設について</li> <li>6. 母子生活支援施設について</li> <li>7. 実習日誌の理解と演習①</li> <li>8. 実習日誌の理解と演習②</li> <li>9. 実習目標を立てる</li> <li>10. 施設別講義①</li> <li>11. 施設別講義②</li> <li>12. 施設別講義③</li> <li>13. 実習に伴う書類の作成、事務手続きの確認</li> <li>14. まとめと振り返り</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	教科書……特に指定なし 参考書……特に指定なし		
評 価 の 方 法	出席状況（無断欠席不可）、授業態度、発表、提出物、試験等による総合評価		

科 目	子どもと保育	講 師	今泉 良一・佐藤 博美 中西 和子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。</li> <li>・ 保育所、施設について理解する。</li> <li>・ 実習生としての基礎知識、技能を身につけ、実習に期待を持つ。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 保育所について① DVD視聴</li> <li>3. 保育所について② 保育教材製作準備</li> <li>4. 現役保育者による講話</li> <li>5. 保育現場の見学①</li> <li>6. 振り返りと発表①</li> <li>7. 施設について①</li> <li>8. 施設について②</li> <li>9. 施設について③（ゲストスピーカー）</li> <li>10. 施設について④（施設見学）</li> <li>11. 先輩から学ぶ保育の実際</li> <li>12. 保育現場の見学②</li> <li>13. 振り返りと発表②</li> <li>14. 定期試験</li> <li>15. 先輩とのグループワーク</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	教科書……特に指定なし 参考書……特に指定なし		
評 価 の 方 法	平常点（無断欠席不可）、ミニテスト、レポート、発表、定期試験等の総合評価		

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ	講 師	音楽科担当講師
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽遊びⅠで学んだわらべ歌・手遊び歌・リトミックソング・季節の歌や生活の歌等の中から、自分に合ったレパートリーを実践演習の中で増やしていきましょう。そして子どもたちと、遊びの中でどう展開していくのか、子どもの視点を念頭に置いて、考えていきましょう。</li> <li>・音楽遊びⅠと同様に、授業時間の前半・後半を45分ずつに分割し、㊤音楽リズム（個人レッスン形式）㊦歌あそび（全体授業）の移動入れ替え制で展開します。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（特に個人レッスンでの注意事項等）</li> <li>2. ㊤音楽リズム：ピアノ等による個人レッスン ㊦歌あそび：自分の声を知ろう（呼吸法・発声練習）</li> <li>3. 〃 わらべ歌・手遊び歌・子どもの歌等の演習</li> <li>4. 〃</li> <li>5. 〃</li> <li>6. 〃</li> <li>7. 〃</li> <li>8. 〃</li> <li>9. 〃</li> <li>10. 〃</li> <li>11. 〃</li> <li>12. 〃</li> <li>13. 〃</li> <li>14. 発表曲のリハーサル</li> <li>15. 実技試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<p><b>教科書</b>……保育内容の理解と方法・音楽遊びⅠで使用したもの。  （『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ出版）、『ポケットいっぱいうた』（教育芸術社））</p> <p><b>参考書</b>……特に指定なし</p>		
評 価 の 方 法	出席状況、受講態度、実技試験による総合評価		